

牛伝染性リンパ腫の伝播リスクの高い牛を摘発するための多検体処理診断法の開発

ポイント！

- 牛伝染性リンパ腫については、「牛白血病に関する衛生対策ガイドライン」を策定し5年が経過するが、**国内の発生は増加**している。同ガイドラインで規定されている農場内の感染拡大防止対策や農場への侵入防止対策の普及が十分でない。
- 農場内の清浄化を進めるためには、**本病を伝播させるリスクの高い牛（ハイリスク牛）の目安を明確**にし、更新の優先順位付けをする必要がある。

現状・課題

・農場内の感染拡大防止対策や清浄化にあたっては、**牛伝染性リンパ腫ウイルスの感染牛と非感染牛を識別することが重要**

・現行法であるリアルタイムPCR法等は、**検査検体数が限られること、検査コストが高い**ことなどから、現場での利用が進んでいない状況



必要な研究

- ①低コストかつ多検体処理が可能な検査法の開発
- ②開発した検査法を既存検査法と比較・検証し、ハイリスク牛の判断基準の設定の検討
- ③検討したハイリスク牛判断基準を活用し、**実農場において、清浄化対策の検査法としての有効性を確認**



研究成果の活用

- ・得られた成果は、「牛白血病に関する衛生対策ガイドライン」の改定を含めた牛伝染性リンパ腫対策の普及を推進する。
- ・牛伝染性リンパ腫の浸潤農場において、ハイリスク牛と判断された牛から、優先順位を付けた上で、**家畜衛生対策事業（仮・清浄化対策モデル事業新設）での早期更新を推進**する。